

講義名・担当教員

金融論・西山慎一

時間割

後期 月曜 4 限

講義の目的

本講義では中級程度の金融論の内容を扱う。金融論とは、資金余剰主体から資金不足主体への資金の融資行動、仲介行動、ならびにそれらに係る証券・債券の取引価格を主な研究対象とし、科学的に分析する学問である。金融論のカバーする範囲は広く、広義には証券投資論、資産評価論、コーポレート・ファイナンス論、銀行行動論、金融システム論、貨幣論、金融政策論等、広範な領域を研究領域とする。本講義において全てのテーマをカバーすることは不可能であるので、金融論の数あるテーマの内、会計大学院生にとって有用と思われるテーマに的を絞って講義を行う。具体的には、資産評価論、証券投資論、コーポレート・ファイナンス論の三つに焦点を当てて講義を行っていく。

成績評価法

- ・ 期末試験（100%）で評価する。ただし、任意提出の課題によりボーナス点の加算あり。
- ・ AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

講義の進め方

- ・ 教科書と参考書（下記参照）に基づいて講義を進める。
- ・ 課題の提出は任意とし、提出すれば出来具合に応じてボーナス点を加算する。
- ・ 期末試験を行う。

オフィスアワー

火曜日
16:20-17:50
経済学部研究棟 622 号室

連絡先

講義時に指定する。

予習・復習について

<予習>

- ・ テキストの該当範囲について事前に読んでおくことが望ましい。

<復習>

- ・ 講義内容および講義資料をもとに復習することが望ましい。

その他（連絡事項）

- ・ 講義は日本語で行う。宿題と期末試験は日本語で出題し、解答は日本語か英語とする。
- ・ 課題については任意であるが、提出する場合は指定された期日までに提出すること。遅れた場合は受理しない。
- ・ 期末試験は学期最後の講義中に行うが、学期最後の講義に都合により出席できない者は速やかに、遅くとも期末試験の一週間前までに担当教員まで連絡すること。連絡なく欠席した場合は、救済措置は講じない。

この講義を受講するために必要とする知識

- ・ 高校卒業程度の代数・解析（微分積分）・確率・統計の数学的知識を受講の前提とする。必要とされる数学的知識は、他の経済学の科目で必要とされるレベルよりも高いので注意すること。
- ・ 中級ミクロ経済学の知識があれば講義を理解する上で有用であるが、受講の前提とはしない。

テキスト・参考文献

- ・ テキスト：古川・蜂谷・中里・今井『基礎からのコーポレート・ファイナンス [第3版]』中央経済社、2006年。
- ・ 参考文献：ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン『現代ファイナンス論 [改訂版]』ピアソン・エデュケーション出版、2003年（訳者：大前恵一郎）。

第1回：オリエンテーション

講義の内容

1. オリエンテーション
 - ・本講義の目的ならびに概要
 - ・講義の進め方
 - ・テキストの指定
 - ・成績評価について
2. 経済学の復習

第2回：金融論概観

講義の内容

1. 金融論とはなにか
 - ・金融論の定義
 - ・資金循環の概念：資金余剰主体から資金不足主体へ
 - ・直接金融と間接金融：金融市場と金融仲介機関
 - ・金融商品の取引価格：時間とリスクの概念
2. 日本の金融構造
 - ・金融制度と金融構造
 - ・日本の金融構造の変化
 - ・金利自由化と金融国際化

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第3回：金融システム・金融市場概観

講義の内容

1. 日本の金融制度と金融機関

- ・日本の金融制度の特色
- ・日本の金融機関
- ・金融機関の同質化
- ・メインバンク制

2. 短期金融市場

- ・インターバンク市場
- ・オープン市場

3. 証券市場

- ・証券市場の機能
- ・債券市場
- ・株式市場

4. 外国為替市場

- ・外国為替取引と為替レート
- ・為替リスクのヘッジ

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第4回：キャッシュフローの時間的価値Ⅰ：確実性の下での評価

講義の内容

1. 複利計算とは
 - ・将来価値の計算
2. 現在価値と割引
 - ・現在価値の計算
3. 複数のキャッシュフロー
 - ・複数のキャッシュフローの将来価値
 - ・複数のキャッシュフローの現在価値

- 本講義は、テキスト第2章および参考書第4章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第5回：キャッシュフローの時間的価値Ⅱ：不確実性の下での評価

講義の内容

1. 安全資産と危険資産
2. 期待効用
3. 収益の期待値と確実な収益
 - ・ 危険回避的投資家の選択と分散・標準偏差

○本講義は、テキスト第3章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第6回：債券の評価

講義の内容

1. 割引現在価値法（DCF法）によるキャッシュフローの評価

- ・キャッシュフローの基本単位：純粋割引債
- ・表面利回り，直接利回り，満期利回り
- ・同一の満期で利回りが異なる理由

2. 債券価格の時間的変化

3. 金利の期間構造

- ・金利の構造
- ・金利の期間構造理論

○本講義は，テキスト第6章および参考書8章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第7回：株式の評価

講義の内容

1. 株式の評価
 - ・ 配当割引モデル
 - ・ 利益と投資機会
 - ・ PE レシオ倍率法
2. 配当政策は株価に影響するか
 - ・ 現金配当と自社株買い入れ
 - ・ 株式配当
 - ・ 配当政策

- 本講義は、参考書第9章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第8回：ポートフォリオ選択

講義の内容

1. ポートフォリオ選択のプロセス
 - ・ 所有期間
 - ・ リスク寛容度
2. 期待収益とリスクのトレードオフ
 - ・ 無リスク資産
 - ・ 無リスク資産とリスク資産の組み合わせ
 - ・ 目標期待収益率の達成方法
3. 効率的な分散化
 - ・ 2つのリスク資産のポートフォリオ
 - ・ リスク資産の最適な組み合わせ
 - ・ ポートフォリオ選択
 - ・ 目標期待収益率の達成方法

- 本講義は、テキスト第4章および参考書第12章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第9回：資本評価の理論（CAPMモデル）

講義の内容

1. 資本資産評価モデル（CAPM）の概要
 - ・市場ポートフォリオのリスクプレミアムの決定
 - ・個別証券のベータとリスクプレミアム
2. ポートフォリオ選択における CAPM の活用
3. 収益率の評価と規制
 - ・DCF法
 - ・資本コスト
 - ・規制と取引費用

- 本講義は、テキスト第5章および参考書第13章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 10 回：財務諸表とキャッシュフロー

講義の内容

1. 財務諸表の基礎
2. キャッシュフロー
 - ・ 資金サイクル
 - ・ キャッシュフローの求め方
 - ・ キャッシュフロー計算書
3. 資本コスト
 - ・ 加重平均資本コスト (WACC)
 - ・ 負債コスト
 - ・ 自己資本コスト
 - ・ 資本構成

- 本講義は、テキスト第 8 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 11 回：資本予算

講義の内容

1. 投資プロジェクトの評価法
 - ・回収期間法
 - ・会計的利益率法
 - ・正味現在価値法 (NPV 法)
 - ・収益性指数法
 - ・内部収益率法
2. 複数の投資プロジェクトからの選択
 - ・投資規模が異なるケース
 - ・タイミングが異なるケース
 - ・プロジェクト寿命が異なるケース

- 本講義は、テキスト第 9 章および参考書第 6 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 12 回：資金調達と配当政策

講義の内容

1. 短期資金管理
2. 短期資金調達
3. 長期資金管理
4. 長期資金調達
5. 配当政策
 - ・ 配当政策と企業価値
 - ・ 配当無関連命題
 - ・ 配当と市場の不完全性

○本講義は、テキスト第 10 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 13 回：資本構成と企業価値

講義の内容

1. 財務レバレッジ
2. MM 定理
 - ・ MM 定理の仮定
3. 法人税
4. 倒産コスト

- 本講義は、テキスト第 11 章および参考書第 16 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 14 回：エージェンシー問題とシグナリング

講義の内容

1. 情報の非対称性
2. エージェンシー理論
 - ・エージェンシー関係
 - ・エージェンシーコスト
 - ・企業におけるエージェンシー問題
3. シグナリング理論
4. 資本構成と配当政策におけるエージェンシー理論とシグナリング理論

○本講義は、テキスト第 12 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

第 15 回：期末試験

講義の内容

- これまでの 14 回の講義の内容についての試験を行う。
- 試験時間は 90 分とする。
- 教科書・ノート等の持ち込みは不可。電卓の持ち込みは可。